

D分科会 テーマ③ 財務分析

運営委員：秋 元 雅 則
井 山 信 康

今回のD分科会は44名の参加者と、例年より少なめでありました。

「財務分析」は、過去日本私立短期大学協会独自の『私立短期大学財務分析集計結果』を用いて各校の財務分析を行ってきましたが、平成26年度において前半は、日本私立学校振興・共済事業団の提供した指標である『定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)』を参加者と一緒に作る時間としました。仮想A法人を設定し問題を配布し、解答を説明していく方法で進めました。正確にはレッドゾーンから正常状態のゾーンまで14パターンある内の一つのパターンのみの作業でしたので、各自が自校の数値で作成することは研修終了後となりました。

後半は従来実施してきました短期大学協会独自のデータを利用し、参加校の財務分析へと進みました。初めて研修に参加した人、経理・財務部門以外の方も参加していましたので、最初に計算書類の概要も説明しました。その後各比率の意味を説明後、各分析による演習を行いました。消費収支の関係比率から始めましたが、消費比率の各科目は分かり易い項目でしたので、思ったより淡々と進みました。消費収支の関係比率の派生した規模別の分析も行いましたが、地区別は指示しませんでしたので、各自のどちらかの選択に任せた方がよかったのではと思いました。続けて消費比率の構成比率の平均による分析を行いました。この分析におきまして、短大協会独自の比率の意味、つまり比率自身の平均を求めていることを詳しく説明する時間を割いてもよかったかとも思います。最終では貸借対照表の分析まで行いましたが、今年も教員一人あたりの学生数の分析は行えませんでした、表を眺めていた参加者も何人かいましたことが気になっていました。

さて、来年度の本分科会では、例年用いている短期大学協会の財務分析集計結果が今回用いた24年度版をもって最後になるため、財務分析への利用ができなくなります。又、新学校法人会計基準の導入により計算書類の変更が平成27年度より行われますが、それに伴い、分析方法の変更が求められるわけですが、この研修会でどのように取り扱うか意見交換を進めたいと思います。

以上